慰霊友好親善事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受けて実施しているこの事業については、2回目の参加も可能となっていますが、遺児の高齢化により、年々参加者が減少しています。数年先には事業の継続も困難となることが予想されます。行政窓口からの広報も実施されていますが、事業制度を知らなかったという遺児の方も多くおられます。各遺族会でも機会を見て周知を図っていただき、遺児の方の参加を援助していただきたいと思います。

このたび広島県遺族会会員の参加者から手記が寄せられたので、未参加者の方の参考になればと思い掲載いたしました。投稿者の皆様にはお忙しい中ご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

フィリピン慰霊友好親善訪問団（E班）

「平成二十四年三月二日～九日」

三原市中之町八―一一―四〇　小林　英夫

この度、九年ぶり二度目のフィリピンに来ることが出来ましたので大変感謝しています。初めての時は、成田空港からマニラ国際空港を経由してパナイ島イロイロ空港へ着き。ホテル　サラビア　マノールに宿泊し、翌日イロイロからやっと三十人位が乗れる小船で、ギマラス島沖にてお父さんの無くなった場所へ向かって花を供える事が出来た様子がつい数日前の様によみがえって来ました。年をとるのも早いもので、私もお父さんの人生の二倍も長く生きる事が出来ました。お母さんも七年前にそちらへ行きました。「お父さん」もうお母さんに会えましたか。そして仲良くしていますか。初めてフィリピンへきた時は良く知りませんでしたが。その当時の同室の方から帰国後何度もお会いして、お父さんの乗った鎌倉丸の情報を頂き、なお、数々の資料をお送りくださいました。鎌倉丸が諸般の事情で秩父丸から船名を変更した事等まったく知りませんでした。神戸からマニラを経由してバリクパパンへ向け単独航行中にアメリカ潜水艦ガジョンの二発の魚雷攻撃を受け、わずか五分間で船首を上に向け棒立ちになり沈没した事は私には到底考えられませんでした。今回は遺児百三十一名の参加者でした。A班十五名、B班二十一名、C班二十二名、D班十九名、E班十一名、F班二十名、G班二十三名です。私達E班はセブ島慰霊巡拝、パナイ島慰霊巡拝、学校訪問、病院訪問、パラワン島慰霊巡拝、ナガ慰霊巡拝、カリラヤにて全戦没者追悼式等の順番で執り行なわれました、この度は皆様のご協力を得てフィリピン慰霊友好親善訪問団に参加できました。私にとっては前回果たせなかった鎌倉丸の沈没現場のナソ岬を望むすばらしい海岸にて慰霊できました。大変有難うございました。

◈　◈　◈　◈

フィリピン慰霊友好親善訪問団（F班）

「平成二十四年十一月十四日～二十一日」

東広島市高屋町造賀七四九七　森川　慶子

竹原市新庄町一九二七　伊藤　和子

父の墓石に昭和二十年七月十七日戦死　フィリピンレイテ島ビリヤバと刻んであります。

幼ない時から父の姿は写真でしか見ることはできませんでした。赤紙一枚で招集され、三十九才という若さで戦死した事実だけを六十七年間認めて、一生懸命に生きてきました。

年齢を重ねた今、父が亡くなった所を尋ねて、父の苦労の一端でも知りたいと思っていたところ、遺族会で慰霊を主とした事業があることを会員さんから教えていただき、早速に申し込みました。遺族会の方々のお世話によって慰霊友好親善訪問団の一員になることができました。

旅行の行程表を手にして、すぐに地球儀を出し、フィリピンを確認し、地図には赤いボールペンでレイテ島・ビリヤバに○印をし、父が戦死した場所を確認しました。

十一月十四日靖国神社境内の会館に集合し、靖国神社に拝殿し、身の引きしまる参拝により戦没者への追悼の礼をつくしました。

母が毎年上京し、靖国神社に参拝していた心情を共有することができました。

今回のフィリピン訪問団は六班あり、私達レイテ島F班は八名で編成され、団長、添乗員を加え十名の小人数で、自己紹介の後すぐに打ち解けて楽しい旅の始まりでした。

メンバーの中に二十年前に遺骨